

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/seiiku-zyoho.html#suitou>

第 1 報  
千葉県農林水産部  
令和8年5月22日

## 全体的に茎数が多い傾向です

## 生育状況をよく確認し、中干しを適期に行いましょう

### [ 生育概況 ]

気象状況は、気温は4月の第1半旬から第3半旬にかけて平年より高く、第4半旬以降は平年並～高く推移しました。日照時間は4月第5半旬から5月第1半旬にかけてはやや少なく、5月第2半旬以降は多く推移しました。

4月20日植えの水稻の生育は、草丈が「やや短～並」で、茎数が「やや多～多」となっています。5月1日植えも同様の傾向です。

表 1 品種別の生育状況（5月20日現在）

品種	植付時期	生育程度（平年値との比較）※		
		葉令の進み	草丈	茎数
ふさおとめ	4月20日	やや早	やや短	やや多
ふさこがね	4月20日	並	やや短	多
コシヒカリ	4月20日	並	並	多
	5月1日	並	やや短	多
粒すけ	4月20日	並	やや短	多

※平年値は直近10か年（2016～2025年）の平均値。

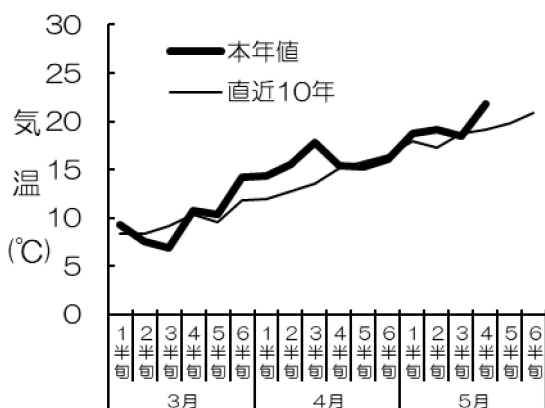


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

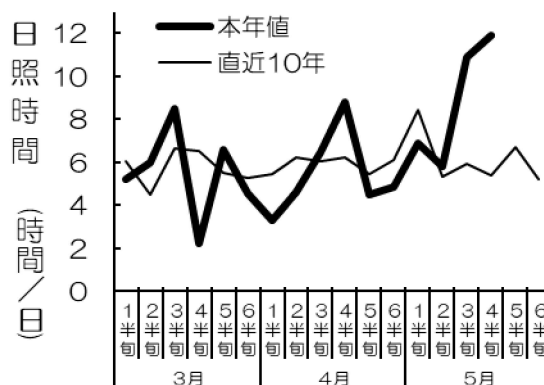


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

## [ これからの管理のポイント ]

### ■ 生育に合わせた水管理を

気象庁の5月21日発表の1か月予報によると、気温は高い見込みです。今年は全体的に茎数が多くなっています。適正な茎数とするため、中干しが遅れないように生育状況をよく観察しましょう。

中干しは過剰な分げつを抑え、地中深く根を張らせる効果があるため、近年、頻発している登熟期の高温登熟障害の予防としても有効です。また、倒伏防止や還元障害（ガス沸き）対策に有効です。土壤水分にムラが生じやすい場合は、「溝切り」を行うことでムラが解消でき、中干し効果が高まります。

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m <sup>2</sup> (27本/株)	480本/m <sup>2</sup> (27本/株)	440本/m <sup>2</sup> (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m <sup>2</sup> (20本/株)	360本/m <sup>2</sup> (20本/株)	360本/m <sup>2</sup> (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m <sup>2</sup> (18本/株)	310本/m <sup>2</sup> (17本/株)	300本/m <sup>2</sup> (16本/株)
	5月1日			
粒すけ	4月20日	472本/m <sup>2</sup> (26本/株)	440本/m <sup>2</sup> (24本/株)	

※（ ）内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。  
極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある。

### ■ 病害虫の適期防除

病害虫発生予報第2号（5月15日）によると、スクミリンゴガイの予想発生量は「やや多」、イネドロオイムシは「少」、イネミスゾウムシは「やや少」、いもち病は「並」となっています。病害虫発生予察情報は、右の二次元コードよりご覧ください。

#### ○ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイは、九十九里沿岸部を中心に被害が発生しています。初期の食害を避けるため、浅水管理や薬剤防除を実施します（右の二次元コード参照）。

### ■ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病を放置すると、収量などに影響するほか、胞子が飛んで周りのほ場の苗にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、その採種ほ場では種子としての出荷ができなくなる場合があり、優良な種子の供給に支障をきたす恐れがあります。

稲作農家全体に関係する問題ですので、本病の発生が見られたら、出穂前までに罹病株を株ごと抜き取り、水田から離して埋設処理するなど新たな感染源とならないよう防除をお願いします（右の二次元コード参照）。

